



教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会

牧師 小林政和

八千代市大和田新田 94-77

Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925

Eメール: gpnng725@gmail.com

URL: <https://yachiyokyokai.org>

郵便振替・00190-4-554373

今年のみ言葉 ローマ人への手紙 8章 34節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていただくのです。」

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈禱会

「天の軍勢のもう一つの働き」

牧師 小林 政和

『しかしイエスは、彼らに言われた。「あなた方で、何か食べる物を上げなさい」。彼らは言いました。「私たちに5つのパンと2匹の魚のほか何もありません。」それは、男だけでおよそ5千人もいたからです。それからイエスは、5つのパンと2匹の魚を取り、天を見上げ、それらを祝福して裂き、群衆に配るように弟子たちに与えられました。人々はみな食べて満腹しました(ルカ9・13-17)。この話はイエスが「5つのパンと2匹の魚」を5千人の人に給食した奇跡です。この時、神の国では天の軍勢は大忙しで、彼らのいる霊的世界(神の国)で5千人の給食を作られたのです。イエスだけが天上(神の国)と地上の接点を持っておられ、神の子イエスが祝福の祈りをすると、天上のものを地上で手に入れることができたのです。イエスがパンを割くと新しいパンが増えていきます。神の国から地上にパンが押し出されて来て、イエスだけが入手することができ、弟子たちに渡されました。魚もイエスが割くと新しい魚が増え(神の国から地上に魚が押し出されて)、イエスだけが入手することができ、弟子たちに渡されました。男だけで5千人で、女性と子供を加えると1万人の給食を出したことになります。全員が満腹したのです。

エリシャのところにアラムの軍隊が襲って来ました。『神の人の召使いが、朝早く起きて外に出ると、なんと馬と戦車と大軍がその町を包囲していました。若い者が「ああ、ご主人さま。どうしたらよいでしょう」と言います。すると彼は、「恐れるな。私たちと共にいる者は、彼らと共にいる者より多いのだから」と言いました。そして、エリシャは祈って主に願います。主がその若い者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていました(Ⅱ列王記6・15-17)。これが「天の軍勢」なのです。エリシャのような預言者に祈ってもらわねば、私たちとは次元が違いますから、天の軍勢を見ることができません。ある時は軍隊になり、ある時は料理人になってくれるのです。私たちの身近にいるのは確かです。



1月6日(火) 野崎宅家庭集会

野崎姉が八千代市内に移転してきてから今回は3回目です。教会から車で15分の近さなので、これからは毎月行うことになりました。讃美歌を歌い、小林牧師のメッセージを聞き、お祈りをして実りある豊かな時を過ごすことができました。感謝です。



教会の花
(1月1日撮影、
下橋)



1月1日(木) 新年礼拝

いつものように、小林牧師の新年のあいさつに始まり、礼拝が行われました。年の初めには、教会で「新年礼拝」が恒例になっています。新年に相応しい、厳かで清々しい1年の門出になりました。神さまのご加護と、お導きがありますように。

終了後のお茶会は新年に相応しく、お雑煮と手作りの料理を頂き、皆で今年1年の抱負を話し合いました。(下橋)

1月11日(日)「新年合同礼拝・成人式」

1月11日(日)に、連合センター(練馬バプテスト教会)において、次のように行われました。

第1部 新年合同礼拝

東京地区連合の30教会の信者が集まり、狩野久子師(町田金井バプテスト教会)を通し、ローマ8章34節からメッセージを頂戴しました。

第2部 成人式

今年20歳を迎える16人の男女に、地区連合委員長等から祝辞が述べられ、うち出席者7人が20歳になった喜び、抱負などを語りました。ある成人者の母親から今まで育ててきた喜びが語られ、その子(成人者)から、これまでの育ててくれた感謝が述べられ、最後は親子でハグし合う涙の対面シーンがありました。(小林)



メンバー紹介 「成人式を迎えて」

河手真愛

パパとママへ

まずは、いつも本当にありがとうございます。

今、私が元気に笑って過ごせているのも、二人が美味しいご飯や温かいお風呂、綺麗な洋服を用意してくれているおかげです。何気ない毎日を当たり前のよう過ごせていることがどれほど幸せなことなのかを、今になって強く感じています。日々の生活の中で、たくさんの気遣いや励まし、そして変わらない愛情を注いでくださっていることに、心から感謝しています。

落ち込んだ時や諦めたいと思った時も、二人の温かい笑顔やさりげない優しさに背中を押してもらい、ここまで乗り越えてくることができました。一人ではきっと、ここまで前を向いて進むことはできなかったと思います。

ワガママで自由奔放なところもある私なので、二人に心配をかけてしまうことがあるかもしれませんが、自分なりに頑張り、少しずつ成長して、二人に一つでも多く恩を返していきたいと思います。これからも体に気をつけて、元気でいてね。



教会及び連合のスケジュール(予定)

11月03日(月)～04日(火) 連合2026年度予算総会
11月09日(日) 召天者合同記念会
11月10日(月) 東京地区牧師会&地区連合委員会
11月23日(日) 大掃除
11月30日(日)～12月24日(水) アドベント(待降節)
12月21日(日) クリスマス礼拝&祝会
12月24日(水) クリスマスイブ(燭火)礼拝
01月01日(木) 新年礼拝
01月11日(日) 新年合同礼拝及び成人式
01月15日(木) 横田早紀江姉を囲む祈り会
02月24日(火)～26日(木) 教職セミナー(於:小田原市・天
成園)
04月05日(日) イースター(復活祭)

祈って下さい

- 1)「バプテスト教会連合54教会の祈祷課題」が、み心にそって実現しますように
- 2)上福岡教会の渋谷昌史師と三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられ、健康が回復できますように
- 3) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 4)イスラエルとパレスチナのハマスとの間での停戦・平和が実現できますように
- 5)横田めぐみさんはじめ拉致被害者の方々が、早く家族のもとに帰れるように
- 6)求道者が救われるように、特に奥田順一兄、池田英穂兄が受洗できるように
- 7)洗礼を受けられた「八木明子」姉の信仰の成長のために
- 8)成田のグループ・ホームにいる安藤真大兄の歩行機能が、リハビリできますように

3 分間講座

黒人霊歌「深い河 Deep River」

歌い出しで、呼びかけるように始まる黒人霊歌「ディーブ リバー:深い河」は古くからある歌で、20世紀の前半にブルース、ジャズなどの要素が加味されて、ソロあるいは合唱曲としていまも盛んに歌われています。

その歌詞は <深い河よ、私の故郷はヨルダン川の彼方にある。主よ、私は河を越えて約束の地へ行きたい。おまえもその地に行きたいと思わないのかい。その地は福音にあふれ、すべてのものが平和であることが約束されている > というものです。この歌詞は、奴隷の状態におかれていたイスラエルの民が、モーセ(それを継いだヨシュア)に率いられてエジプトを脱出。ヨルダン河を渡って、乳と蜜が流れる約束の地(申命記11:9)へ行くシーンを唄ったもので、苦難を乗り越えその先での平和を熱望する様が見て取れます。1610年以降に遠いアフリカから米大陸に運ばれ、毎日奴隷として辛い労働を強いられている自分たちにとって、イスラエルの民が味わったみじめな境遇が、心の中でオーバーラップしてくるのです。黒人霊歌は1日のハードな労働を終え、僅かばかりの休息の時間に仲間が集まる中で、自然発生的に生まれてきたもので、南部に比べてゆるやかな環境だと聞く大陸北部に逃れ、神のもとで暮らしたいとの願望が、この「ディーブ リバー」の詩に隠されているといいます。神に祈る歌は無条件に美しく聞こえます。偶然にも、米大陸の南部と北部に接するノースカロライナ州には、「ヨルダン川」という名の川があります。ただし信仰の世界には縁遠いようですが。

この歌に触発された作家の遠藤周作は、晩年に、かねてから関心があったインドを舞台にした小説「深い川」を書いています。「日本人でありながらキリスト教徒である矛盾」が人生のテーマだった遠藤の、新しいキリスト教像が描かれた作品として注目されました。(池田)



ヨルダン川の一風景

編集後記:毎月発行のこの「教会だより」は、今月で60号を迎えました。ちょうど5年前に3人の編集委員で始まりました。小林牧師が「メッセージ」「スケジュール・祈って下さい」と「メンバー紹介」の依頼記事を、池田委員は「3分間講座」と全体の校正を、私・下橋は「ニュース」「編集後記」の記事とパソコンで編集作成を、それぞれ担当しています。原則、最後の日曜日に発送しています。目下3年4か月後の100号を目標に頑張っています。目標が達成できるよう見守って下さい。神さまのご加護がありますように。(下橋)